



自分が大切
みんなが大切
学校大好き
龍野っ子

学校・家庭・地域の心のかけ橋

今年も道徳教育に取り組んでいきます。

子供たちは、どの子もかけがえのない存在です。また、地域の宝です。

本校に勤務して3年目になります。これまで子供たちに一人一人大切な存在であることを伝え続けてきました。今年、本校の子供たちが「自分のよさ」をしっかりと自覚できる、そして自分に自信をもって何事にも挑戦できる子供たちを育てていきたいと考えています。

道徳教育は、自分の生き方を考える活動です。自分をしっかり見つめ、自分がどうしたらいいか自分の生き方を考える学習です。

本校では、子供たちが「なりたい自分」になるために、一人一人が自己実現できる子供たちに育つよう、取組を進めています。

子供たちが、すくすくと育っていくためには、地域・家庭・学校の連携が不可欠です。この「かけ橋」では、学校の道徳教育の取組を紹介しながら、家庭・地域・学校が一体となって、共に子供たちを育てていく『かけ橋』になりたいと考えています。そこで、本年度も学校での道徳教育をはじめとした心の教育について、紹介したいと思っています。

「笑顔」「元気」「感謝」あふれる子供たちの育成に向けて、今後とも御協力よろしくお願ひします。

道徳科の授業紹介 第5学年「真由班長になる」

フローティングスクール（宿泊教室）で初めて班長になる主人公の真由が、班でのトラブルを通して、「班長はなんだろう」「班長としてどうこうどうすればよいのだろう」と悩む内容です。それぞれが自分のペースや考えを主張するメンバーの中、班長としてどうまとめていくのか、どうすればいい雰囲気になるかなど、真由の気づきを通して集団の一員として自分の役割を考え、よりよい集団になるためにみんなの気持ちを考えて行動することの大切さについて考える教材です。



5年生の子供たちは集団宿泊教室の経験とつなぎながら、班長の大切さや難しさについてしっかりとらえながら学習を進めていきました。班長として大切なことは、相手を思う心、みんなを笑顔にできるような考えで行動する、周りの人を見て困っている人を助ける、やるべきことを考えると、それぞれが自分の考えを発表し合っていました。その中で、班長だけではなく、周りの人のことも考えて行動することが大切だという意見にも広がっていきました。子供たちは、集団の一員として大切なことをみんなで学び合っていました。これからの活躍が楽しみです。

